

## 特発性造血障害疾患の「診療の参照ガイド」(平成28年度改訂版)

### 序 文

#### 特発性造血障害疾患の「診療の参照ガイド」改訂版の作成

難治性疾患克服研究事業における「特発性造血障害に関する調査研究」班は、再生不良性貧血、溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症)、骨髄異形成症候群(不応性貧血)、骨髄線維症の4疾患を対象として、疫学、臨床病態、予後、治療の解明を目的とした班である。本研究班では、わが国を代表する多くの研究者が一堂に会して、長年にわたりさまざまな点から調査、討論、考察を尽くし、数多くの研究を積み重ねてきた。その到達点の一つと言うべきものが、この「診療の参照ガイド」である。

本ガイドの初版は、当時の研究代表者である小峰光博先生がまとめられ、平成16年度に上梓された。その後の班研究を継承された小澤敬也先生が、平成22年度改訂版として世に出された。さらに平成25年度にはマイナーアップデートを行い、オンラインで参照できるようにされた後、6年間の研究班内外の進歩と成果を十分に取り入れて作成したものが、本改訂版である。

本ガイドは、初版から、研究班内外の最新の研究成果を包摂しつつ、診療の参考となるような有用性を持つよう、大変よく工夫された内容になっている。その結果、多くの学術資料などに引用されるとともに、実地医家の方がいつでも手にとって参照できるものとして、とても親しまれてきた。本ガイドの改訂では、これまで同様、研究班内で疾患領域ごとにワーキンググループを作り、領域代表の方のリードのもと、多くの研究者の方が協働する形で行われた。平成27年度から研究代表者を荒井俊也先生に引き継ぎ、各領域の内容がまとめられた。6年間にわたる研究の進歩と知見の広がりを目を見張るものがあり、それらを反映して本改訂版では大幅なアップデートがなされている。最新の知見を過不足なく取り入れ、高い学術性と最新の実用性を融合させた点で、本ガイドはこれまでの伝統を継承しており、多くの専門家がする本研究班にふさわしい成果と考える。

平成28年度版「特発性造血障害に関する調査研究」班の疾患ガイドが、これまで同様に多くの方に親しまれ、今後もアップデートされながら、研究班とともに歩む成果として発展することを祈念したい。末筆ながら、改訂作業に取り組みされた多くの研究者の方に、心より敬意と謝意を表す次第である。

平成29年3月

特発性造血障害疾患に関する調査研究班(平成23～26年度)

研究代表者 黒川 峰夫